

2022 年 8 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社 坪田ラボ
代表者名 代表取締役社長 坪田 一男
(コード番号：4890 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員管理本部長 清水 貴也
(TEL 03-6384-2866)

**“愛情ホルモン”オキシトシンの作用によって、イヌが情動の涙を流すことを、
麻布大学、慶應義塾大学、自治医科大学との共同研究で発見**

このたび当社代表（CEO）坪田一男と、麻布大学、慶應義塾大学、自治医科大学などの共同研究チームは、イヌは情動の変化によって涙の分泌量が増加すること、涙の分泌には脳の視床下部で産生されるホルモン「オキシトシン」が関与していることを初めて明らかにしました。研究成果は 2022 年 8 月 23 日、国際科学誌「Current Biology」オンライン版に掲載、公表されました。

本研究のポイントは以下の通りです。

- ✓ イヌが飼い主と長時間分離後に再会すると、イヌの涙の量が増加した。飼い主ではない親しい人との再会時と比べると飼い主との再会時の方が涙の量が多かった。
- ✓ オキシトシンの点眼により、涙の分泌が促進された。
- ✓ イヌへの人工涙液を点眼前後の画像の印象評価をしたところ、点眼後の画像のほうがポジティブな評価が得られた。

本研究の詳細については、麻布大学によるプレスリリース

(https://www.azabu.ac.jp/topics/2022/0823_39642.html) を参照ください。

坪田は、眼科医、ドライアイ研究のスペシャリストとしての立場から、涙の分泌とホルモンの関係性などを探索する点で本研究に携わって参りました。坪田は今回の成果について以下のようにコメントしています。

坪田ラボはドライアイ、近視、老眼に対する画期的な治療法を開発している慶應義塾大学発ベンチャーです。我々はさまざまな基礎研究の一環として、まったく新しいアプローチでのドライアイのメカニズム解明を進めており、本研究もその一つとなります。

今回の成果は、「イヌが情動の涙を流す」という事実の発見が極めて重要なのはもちろんですが、母性行動の形成に重要な役割を持ち「共感ホルモン」「愛情ホルモン」などと称されるオキシトシンが涙の分泌にかかわり、ドライアイの新たな治療法開発のカギになるかもしれないことを示した点が、眼科領域において特に大きな価値だと考えています。引き続き、研究を継続してまいります。

以上